

警告/注意/参照

参考：
ブレーキフルードの取替作業は、SST(TaSCAN)使用またはSST(TaSCAN)不使用での作業が可能である。

手順

1. 取り扱い・作業上の注意

注意：

- フルード取替はシフトポジションPおよびパーキングブレーキを効かせた状態で行う。
- リザーバのブレーキアクチュエータチューブNo.1(ブレーキブースタポンプASSY-リザーバ間チューブ)取り付けポートよりフルード液面を低下させ、チューブ内にエアが混入すると、フルード取替作業中のポンプモータ駆動によりブレーキブースタポンプASSY内にエアが噛み込み、エア抜き困難となる。
- フルード取替実施中にアキュムレータ圧低下によりフザーが作動する可能性があるが、異常ではないので作業はそのまま続ける。
- フルード取替の際、ポンプモータ保護の為連続駆動は100秒以内で行い、ペダルを解放してポンプモータ駆動を一旦停止させる。
- フルード取替作業により、圧力センサ異常などのダイアグノーシスコードが記憶されることがある。フルード取替完了後および手順中に指示がある場合は、ダイアグノーシスコードを消去する。
- 塗装面にブレーキフルードを付着させない。付着した場合はただちに洗い落とす。
- バキューラなどによる負圧でのブレーキフルード取替作業は行わない。*

参考：

* ECBのアクチュエータは油路が複雑なため、ブレーキフルードに溶け込んでいた気体が、圧力の低下により気化して気泡が発生する可能性がある。

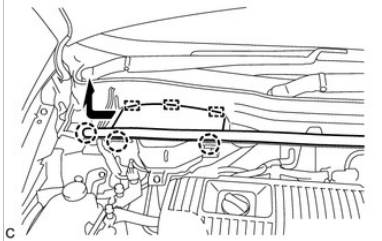
2. ブレーキフルード取替 (SST使用時)

注意：

- アキュムレータからのフルードリリースによりブレーキフルードがあふれることがあるため、フルード缶はリザーバ注入口に立てない。
- フルード取替作業中はブレーキフルードをリザーバのMIN-MAXレベルの間を保つよう補充しながら行う。

a. カウルトップベンチレータールーバーCTR取りはずし

i.

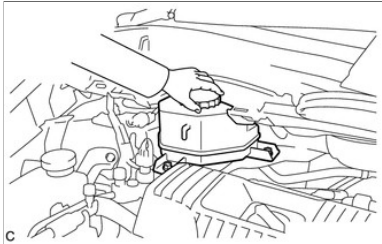


ツメのかん合をずらし、フードウカウルトップシールをずらす。

- ii. ツメ2箇所およびガイド3箇所のかん合をはずし、カウルトップベンチレータールーバーCTRを取りはずす。

b. ブレーキフルード取替

i.



ブレーキマスタシリンダリザーバフィラキャップASSYを取りはずす。

- ii. ブレーキフルードをリザーバのMIN-MAXの間まで補充する。

- iii. IG OFFの状態、SST(TaSCAN)をDLC3コネクタに接続する。

SST
09991-70201

- iv. IG ONにして、SST(TaSCAN)の電源スイッチをONし、SST(TaSCAN)のメニュー画面から、[作業サポート]→[ABS・VSC・ECB(電子制御ブレーキシステム)]→[エア抜き]を選択する。

シャシ > ABS・VSC・TRC > 作業サポート

項目名
エア抜き

実行

- v. エア抜きの種別の選択で、[通常のエア抜き]を選択し、実行する。

参考：

リザーバレベルスイッチコネクタを切り離す必要はない。

- vi. SST(TaSCAN)の指示に従い、フルード取替を行う。

- vii. フルード取替終了後、各ホイールシリンダのブリーダプラグを締め付ける。

トルク：

フロントブリーダプラグ：8.3 N・m (85 kgf・cm)
リアブリーダプラグ：11 N・m (112 kgf・cm)

- viii. ブレーキマスタシリンダリザーバフィラキャップASSYを取り付ける。